

男女共同参画社会へ向けて
一人の「100歩」より
100人の「いっぽ」を!!

いっぽ

Vol.15 2022

目次

- P1 女性活躍—ソフトクリーム専門店 熊本ミルク 渡邊紗也さん—
- P2 男女共同参画と防災 ママ目線の暮らし安心術～もしもに備えるいつも～
- P3 実際はどうなの？パパの育休体験記—合志市役所 吉山和宏さん—
- P4 ワークライフバランスのススメ—合志市男女共同参画推進懇話会 原 恭平さん—

女性活躍

働く場面で活躍したいという希望を持つすべての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会は、男女共同参画社会の実現のためにも重要なテーマです。今、大人気のソフトクリーム店を創業し、合志市で活躍している渡邊さんにお話を聞きました。

「自分のお店を持ちたい」の実現に向けて

父が飲食関係の仕事をしてきたこともあり、高校生のときから「自分のお店を持ちたい」と思っていました。高校卒業後、その実現に向けて、タピオカ店などの飲食業で経験を積みながら、創業資金を貯めました。この経験の中では、原価計算の方法など創業の基礎になることも学ぶことが出来たと思います。はじめは何から始めていいのかわかりませんでしたが、父から助言を受けながら、21歳のときに創業しました。



ソフトクリームを選んだ理由

飲食業で働いていたときは、料理教室に通い、菓子作りの勉強をしたことがあります。また、東京や大阪など国内をはじめ、台湾や韓国にも行って、どんなものがあるか研究してきました。ソフトクリームは、年齢問わずたくさんの人に愛される食べ物です。創業にあたり、「長く愛されるもの」を提供したいと思い、ソフトクリームに決めました。

一度は予算オーバーでやめようと思った

ソフトクリームに決めてからは、一度食べたら満足するだけではなく、「何回も食べたくなるソフトクリーム」を目指し、日々研究しました。濃厚だけでなく考えたらわからなくなった時期もありました。また、従業員を雇用していくという重責からプレッシャーを感じたこともありますし、設備に関する費用など、実際に必要な費用を計算していくと予算オーバーになりやめようと思ったこともありました。でも、「自分のお店を持ちたい」「おいしいものをたくさんの人に提供したい」という気持ち、そして周りの支えのおかげでここまで来ることが出来ました。

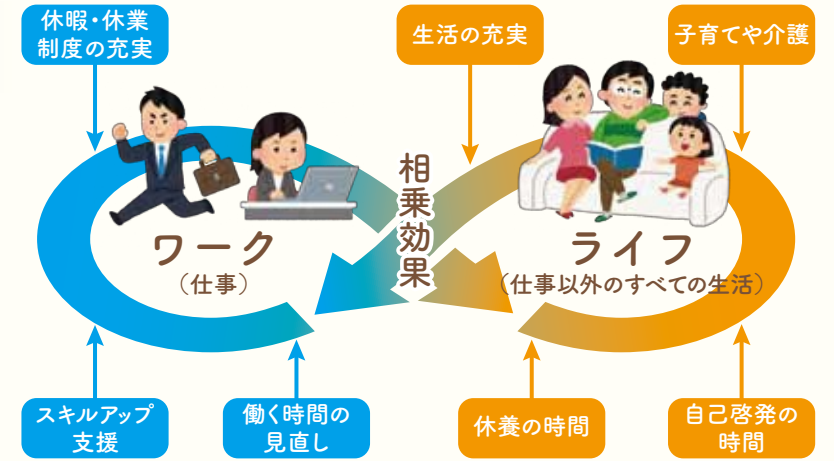


ワークライフバランスのススメ

ワークライフバランス (仕事と生活の調和)

やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても多様な生き方が選択・実現できることです。

個人にとって生活が充実するだけでなく、個々の職場や組織の生産性の向上にも役立ち、社会全体の安定と活力につながります。



ワークライフバランス ～夫のホンネ、妻のホンネ～

夫のホンネ

妻と結婚して12年ほど経ち、子どもも10歳と8歳になりました。子どもが生まれた年から男女共同参画の活動をしています。子どもが生まれた年からは、男女共同参画の活動をするためには、家族の協力が必要不可欠です。活動をするには時間が必要で、その時間、家事ができるのです。何度か広報紙に私の記事を書いて頂きました。その時には周りの方に「偉いね」と言っていたのですが、全くそんなことはないのです。私が活動をしている時間についても、家事育児をしているお母さん、お父さんたちすべての方が偉いのです。

合志市は子どもの人口が増えている、未来ある市です。その子どもたちを育てる、お母さん、お父さん、そして地域の皆さんのためにも、合志市の男女共同参画の推進に微力ながら、活動が続ける事が、私の役目と思っております。もちろん家族の理解、協力を得ながら。

合志市男女共同参画推進懇話会
会長 原 恭平

妻のホンネ

「ワークライフバランス」という言葉に、どこか生きる苦しさも感じてしまっていることがあります。

昨今、「働き方改革」によって、働き方や勤務時間の見直し。育児・介護への理解も深まるなど、変化してきていると思います。また、テレビや雑誌、ネット上などでは、さらばやかに取り上げられる「おしゃれな収納、時短料理」等々。それらは、憧れや一つの参考になりつつも、どこか「別世界」のように感じる瞬間もあります。

私自身、育児をする上で、制度の活用や職場の方の協力と理解を得て、仕事と生活の調和を支えて頂いています。そんな中、仕事や生活に100%のパフォーマンスを発揮出来ているか？というところで、「ワークライフバランス」の言葉の壁にぶち当たります。現状は「アンバランス」だと思っただけです。それと同時に、「アンバランス」でもいいじゃないかと。心のゆとりや生活の充実の基準は各々違います。

やるべき事に務め、奢り高ぶる事なく、丁寧に「人の調和」を大切にしていこうと、アンバランスの中にもバランスのとれた生活を送る事につながるのではないかと考えています。

会長の妻・原 真理子

～合志市男女共同参画推進懇話会とは～

合志市男女共同参画まちづくり条例により、市民の視点による男女共同参画のまちづくりを推進し、男女共同参画に関する基本的かつ総合的な施策や重要事項を調査研究するための市民会議です。学識経験、各種団体推薦、公募、市長推薦により、現在は委員17人で構成されています。

合志市男女共同参画推進行動計画 パートナーシップ
プラン・こうしをご覧ください。

URL

<https://www.city.koshi.lg.jp/kiji0039637/index.html>



お問い合わせ
合志市役所
総務課総務・男女共同参画班
TEL: 248-1112
FAX: 248-1196
メール: soumu@city.koshi.lg.jp

実際はどんなの？パパの育休

育児にはもっと参加したい。だけど、育児休業は取得しなかったというパパが多いのが現状です。
パパの育休経験記を見て、ご検討の一助としていただければ幸いです。

育休体験記

—育休は「休み」ではない—

合志市役所 吉山 和宏 さん

吉山さんのプロフィール

- ① 職場 合志市役所
- ② 年齢 44歳
- ③ 家族構成 妻、子(2歳)
- ④ 育児休業取得期間 令和2年9月～令和3年3月(6か月間)



2人で過ごした時間があつたからこそ
コロナ禍ではありましたが、子どもとはよく児童館などの子育て応援事業を利用しました。2人で過ごした時間はとても楽しい時間で、出来ることが増えるなど、成長を間近で感じることもできました。今でも「パパだいたいすき」と駆け寄り寄ってきてくれるのは、2人で過ごした時間があつたからこそだと思います。もちろん、子育て中にはイライラすることもありました。子どもが寝ない、ご飯で遊ぶなど、子育て中の人なら感じたことがあるかもしれません。そういった経験も含めて、充実した時間だったと思います。児童館といえば、利用者の9割が女性でした。パパ友づくりの場もあるといいなと思います。

育休体験が始まって最初に感じたことは「親一人ではなかなか大変だ」ということです。まず困ったことは食事です。ちょうど離乳食真っ只中で、近くに住む妻の両親にサポートしてもらいつつ、また、市販のものも取り入れながら乗り切りました。
次に、子育てと家事の同時進行の難しさです。家にいるというだけで、掃除、洗濯、夕飯の支度などもしながら、子どもと関わります。途中で子どもが泣く、食事をひっくり返す、親についてくることは日常茶飯事で、予定どおりに進まないことも多々ありました。改めて、子育ての大変さを実感しました。

職場の理解が何よりの後押し
9月生まれの子どもの1歳になるとき、保育園の入所を申し込みましたが、定員オーバーで入所できませんでした。家族でどうしようかと考えたとき、私の職場の理解が得られたことをきっかけに、半年間の育児休業取得を決意しました。もともと子育てには積極的に関わりたいと思っており、「今しかない」という気持ちもありました。

育児休業中のある1日

- 7:30 起床
子どもの朝ごはん、ミルク
片付け、洗濯、お出かけ準備
- 10:30 児童館のつどいに参加
散歩(子どもお昼寝)
- 12:30 子どもの昼ごはん
片付け
- 15:00 子どもと遊ぶ
洗濯取り込み、夕飯準備
- 19:30 子どもの夜ごはん
片付け、お風呂
- 21:00 寝かしつけ

育児休業取得をきっかけに、育児日記アプリを活用したという吉山さん。パパとママが子育てを共有する第一歩になるかもしれません。

育児休業取得のために
育児休業を取得するまでは、正直、職場にどういった制度があるのか知りませんでした。育児休業を取得する不安のひとつに、金銭的な問題もあると思います。自分の職場にどういった制度があるのかを調べてみるものいいかもしれません。
育児休業は、考え方によっては仕事以上に大変です。しかし、普段から両親が協力して子育てが出来ればいなどと思います。

「大変だよね」「お互いさま」の気持ち
一緒に仕事をする仲間には、子育て中の人もたくさんいます。子どもが熱を出した、コロナの影響で休園になったなど、突発した出来事があるのが子育てです。「大変だよね」「お互いさま」の気持ちが強くなりました。また、子育てとの両立のため、普段の仕事のあり方について、より考えるようになりました。本当に必要な仕事は何か、互いの負担軽減も必要だと感じます。

「合志市を盛り上げてくれてありがとうございます」
合志市に住んで思うことは人が優しく、静かな住環境で住みやすいということです。私は合志市商工会に入っています。創業にあたり会員の方からも本当に良くしていただいでいて、たくさん助けられています。中でもセイブクリンの坂井さゆり社長から「合志市を盛り上げてくれてありがとう」と言っていたことはとても嬉しかったです。街中で創業していたら味わえなかったような人情を感じています。
たくさんさんの支えのおかげで今がある
女性活躍と聞いて、私は、あまり「女性だから」と考えたことはありません。ただ、「インスタ映え」する写真の撮り方など、女性の得意なことはあると思います。また、私は安全でおいしいものを提供するために素材にもこだわっています。
しかし、一番思うことは、たくさんさんの人の支えと助けがあつて今があるということです。私が見なさんにメッセージを送るなんてまだまだと思つていますが、私はこれからもこの気持ちを忘れずに頑張っていきたいです。
★キーワード
女性活躍推進法
正式名称は「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」といいます。女性の活躍推進に向けた数値目標を盛り込んだ行動計画の策定・公表や、女性の職業選択に資する情報の公表が事業主(国や地方公共団体、民間企業など)に義務付けられています。また、一般事業主行動計画を届け出た企業のうち、女性の活躍推進に関する取組の実施状況などが優良な企業は、厚生労働大臣の認定(えるぼし認定)を受けることができます。

男女共同参画と防災 気づきうなずき講演会—YouTube動画配信により開催—

ママ目線の暮らし安心術～もしもに備えるいつも～

今回の気づきうなずき講演会は、テレビ番組にも出演されているしほママ(柳原志保)さんによる「ママ目線の暮らし安心術～もしもに備えるいつも～」をYouTube合志市公式チャンネルでの動画配信により行いました。東日本大震災や熊本地震で被災された経験から、日頃の備えの考え方、災害時に不足する物品や誰もが来られる避難所づくりのポイントなどについて、講演していただきました。

配信期間：令和4年2月1日から2月28日 総視聴回数：193回

～防災カアッは人間力のアッにつながる～

柳原家の心得 5カ条

- 一、自分でできる事は自分で
災害時はみんなが被災者になる。普段していないことは災害時にはできない。子どもも自分でできることをやってみよう。
- 二、コミュニケーションは自分から
助け合える人間関係をつくるのが大切。地域のひととの挨拶、ともだちづくり、親子のコミュニケーションを大事にしよう。
- 三、片付けと整理整頓
安全な空間をつくり、早い避難行動につながる。靴をそろえる、身の回りの整理整頓を習慣にしよう。
- 四、規則正しい生活リズムを
生活リズムを整えると免疫力、心の安定、身体の成長につながる。災害時のメンタルケア・健康づくりのためにも、普段から早寝、早起き、朝ごはん、運動を心がけよう。
- 五、前向きにトライ
災害を乗り越えるための強い精神力と考える力を養うためにも、「できない理由ではなく「どうしたらできるか」を親と子で一緒に考えよう。

視聴者の感想

しほさんのお話、とてもわかりやすかったです。講演会は中止になり残念でしたが、動画配信ならではのメリットを感じました。子どもと見たり、一時停止をしてメモをとったり、もう一度戻してみたり、ゆっくり時間をかけてみることができました。

色々な立場でもそれぞれに役割がある事に改めて気付かされた。特に子どもの役割は教えていかなければならない。

女性の視点が最も活かされる時が必ずあります。だからこそ、まず何よりも男性も女性も得意なところを出し合える環境を創ることが必要だと思います。